

石動山の山頂、大御前に祀られた伊須流岐比古神社を中心とする五社権現の別当寺としての総名天平寺等を巡る、自然・歴史・文化の概要。

(1) 伊須流岐比古の開山：

①古くは、「石動山古縁起」は、

(イ) 紀元前 91 年、古代インド（天竺）の高僧方道仙人説、

(ロ) 717 年光仁天皇第四皇子智徳上人説、

②加賀藩三代藩主利常公の依頼による林羅山著「石動山新縁起」は、717 年泰澄説を記載。

(2) 「抑石動山、開闢年古く、日本国郡之境界無之、法道仙人踏分来住、其後星霜久敷相立、三十九大天智天皇以来勅願所、同四十四代元正女帝、同四十五代聖武天皇天平寺号被仰付、同四十九代元正女帝之皇子智徳上人住跡号大宮坊ト、四十六代孝謙女帝天平宝度建立、日本無比類古霊場之处、天正十一年百七代正親町院石動山再建勅詔有之、能登国石動山之有馳走之旨被聞召候、勅願所異于他二处之間、天正十一年、五社権現新造之時、前田利家公、神領五十石寄付、其後慶長二年本社御前御普請、三代目利常公百石御増、是以来一山格式別格也」

(3) 石動山の発展、争奪灰燼、復興等に関する勅使、勅令、皇室の御祈願・寄進、領土の所有安堵の変遷等：

757 年勅使左大臣藤原家道が、参拝時、虚空蔵菩薩像が示現、と。

1154 年勅使御子左大納言俊道が、参拝時、同縁起を書写。

1179 年後白河法皇撰「梁塵秘抄」に石動山の名が在り。

1224 年宣陽門院（後白河法皇の皇女）の所領目録に「石動山、皇室の祈願所」と在り。

1294 年「拾芥抄」に、石動山の本地は虚空蔵菩薩、開山は光仁天皇第四皇子智徳上人と。

1341 年足利尊氏、光明天皇の勅令で、石動山を再興。

1484 年石動山天平寺、勅願所の由緒で、歳末の数巻を朝廷に進上。

1486 年石動山天平寺、歳末の巻数一合を朝廷に進上。

京都冷泉為広、石動山に参拝「これや此、神の力の、ゆするぎや、四方に名高き、山風の聲」と。

1543 年後奈良天皇、大御前社頭再興の論旨を下す。

1569 年石動山天平寺の大衆等、上杉謙信の戦勝祈願、大般若經一部を転読。

1577 年上杉謙信、七尾城を落城。

1582 年上杉勢が、前田勢を攻撃、荒山城陥落、石動山全山灰燼。

1583 年正親町天皇、秀吉に石動山再興の論旨を下す。

1597 年金剛峰寺空鏡、石動山に法衣を寄進。

1609 年前田利家公・同夫人、石動山へ木造十一観音像を寄進。

翌年利家公夫人、大宮坊に打敷を寄進。

1623 年近衛信尋、石動山巻数奉納の復旧にて、石動山宛祝状を出す。

1685 年加賀藩、天平寺と伊須流岐比古神社とに由縁書提出を命ず。

1704 年阿闍梨法院裕遍、天平寺祖師堂に木造弘法大師像を寄進。

1753 年御室御所仁和寺、石動山へ大宮坊檢校舎を再興したい書状を下す。

1757 年御室御所仁和寺、石動山へ鬼門鎮守の教示状を下す。

1764 年御室御所仁和寺、石動山に上座六員の色衣着用を許可。

1868 年神仏分離令が出され、以降、全国に廃仏毀釈運動が起きる。

石動山衆徒、集議すること三日、石動山天平寺を伊須流岐比古神社として存続させての還俗を決定。

(4) 天皇、朝廷系、京都の有力寺院等からの、

勸進米の促進、五穀豊穰、健康祈願、社会安寧等の祈願例：

1518 年後柏原天皇から諸堂再建の論旨を得て、勸進米促進が活動始まる。

1630～33 年藩主利常公、幾度も、石動勸進に付、河北郡十村宛、協力周旋せよと命ず。

1753 年石動山、寺社奉行宛、勸進知識米徴収に付、往古の格式に復し、協力するよう徹底願ひでる。

1772 年後桃園天皇、石動山へ北國七ヶ国御穀神納の論旨を下す。

1784 年加賀藩、はじめて石動山へ村方五穀成就の祈祷を申し付け、白銀十枚を与える。
石動山、寺社奉行へ勸進知識米の格式の定め違乱につき、徹底改善を願い出る。
砺波・射水郡奉行、御算用場へ、石動山勸進知識米につき、円滑化を申し出る。

1824 年 石動山、能越の五穀成就の祈祷を行う。

1831 年 御室御所仁和寺、石動山へ諸祈祷を怠慢なく勤行することを命ず。

加賀藩、將軍のために、石動山による厄除祈祷を命ず。

1832 年 御室御所仁和寺、石動山へ、来年の御室御所千年忌につき、衆徒一同疎略なく勤行を命ず。

1847 年 加賀藩第 12 代藩主齊泰公、石動山へ藩主前田慶寧の痼瘡平癒祈願を命ず。

1853 年 加賀藩第 12 代藩主齊泰公、能州海岸防備状況視察の途次、防備安全祈願のため石動山へ登る。

1858 年 加賀藩第 12 代藩主齊泰公、石動山へ気候不順・急病流行につき祈祷を命ず。

1864 年 石動山、京都兵乱につき御所へ御機嫌伺いを出す。

(5) 加賀藩寺社奉行宛、石動山の本社復興、他諸願書等を願い出。都度、加賀藩主は、当山、当神社、関連天平寺の

復興、改修を惜しみなく支援した：

1712～13 年、2 年連続で、石動山、大風での本社破損状況書上や、藩寺社奉行に諸願書を提出。

1722、32、34、35、37、38、39、40、41、51、59、61、85 各年に頻繁に本社修覆等願書を継続的に出した。

1754 年大宮坊、寺社奉行へ、檢校職再興に付、取り計らい願い出る。

1828 年石動山、寺社奉行へ越中街道口下馬札破損につき建替え願を提出。

1845 年 6、10 月の 2 回、石動山本社建替え用材木の運搬につき、二宮村、加賀藩へ人足賃銭願を提出。

(6) 高志(加越能)の推移。

1580 年織田信長、長連龍に鹿島半郡を与える。

1581 年信長、長連龍に石動山新神領を知行させ、前田利家に能登一国を与える。

1585 年秀吉、前田利家に加賀能登越中の三国を与える。

1869 (明治 2) 年 加賀藩第 13 代藩主慶寧公、金沢藩知事となる。

1871 (明治 4) 年 加賀藩第 13 代藩主慶寧公の折、能登及び越中射水郡をもって七尾県が置かれる。

1872 (明治 5) 年 2 月 金沢県が石川県に改められる。

同年 9 月 七尾県が石川県に編入。

1874 (明治 7) 年 加賀藩第 13 代藩主慶寧公、療養先熱海で死去。

尚、1868 (明治 2) 年、坊院数 58 の内、

①還俗した氏名と坊院名 (小計 50)、次の通り。

佗藤兵庫 (宝行坊)	児玉重蔵 (重蔵院)	岡崎中務 (仏蔵院)	
岡野内膳 (福知院)	日出山求馬 (道任坊)	宝池 近 (宝池院)	宇多門 (普門院)
渡辺伊織 (行任院)	廣瀬斎宮 (妙蔵院)	菅野大学 (釈迦院)	岡部可摩 (花王院)
柴田大膳 (大膳院)	児玉東馬 (祐定院)	浅尾数馬 (宝珠院)	鈴木辰次 (年照院)
林 守人 (東林院)	西尾主水 (延命院)	月見千太夫 (千手院)	徳野 貢 (大徳坊)
岡部靖記 (重善院)	岡崎式部 (藍観坊)	大西将監 (阿弥陀院)	岡崎大進 (城福院)
岡崎内匠 (大宝院)	茂野大蔵 (東蔵院)	広橋民部 (心王院)	広田主膳 (性空院)
広田由記 (三蔵坊)	岡部三水 (歌実院)	高沢 算 (妙高院)	岡部初彌 (宝達院)
岡野主斗 (妙法院)	藤嶋鞍員 (安養院)	松岡司馬 (松本院)	渡辺連馬 (戒定院)
岡山守人 (来迎院)	芝加次馬 (月光坊)	金子源海 (重宝院)	松岡来女 (五智院)

以上四十一氏に加え、無住の九坊 (大宮坊、花蔵坊、隋勧坊、来智院、良智坊、大智院、円光坊、法性院、明覚坊) も夫々に還俗名をつけている (小計五十氏)。

②還俗を承諾しなかった眞蔵院、尊祥院、慈光院、一明坊、日斉院、惣行院、大覚坊 (小計 7) は、境内の「はったへ山」に移転するとの記載がある。

③西尾にある延命寺のみ天平寺を継承した (小計 58＝上記 50＋7＋1)。

同天平寺は、昭和 5 年大雪で壊滅した。

(7) 以上の経緯を踏まえ、天下一の勅願精霊聖地の伊須流岐比古山の神（伊須流岐比古神社）と仏の神仏習合に関する

る当地に付、

(イ) 総名天平寺：中世の盛んな折には坊院 360、僧侶 3000 人。江戸末には、坊院 58、僧侶 500 人弱から成る神仏習合の祈願霊場聖地）が、明治初期、神仏分離令故に、大宮坊の復興以外では、従前の貴重な歴史文化遺産は、山門を含め、天平寺の別院長楽寺に移管され、今日にいたった。

(ロ) 思えば、昭和 5 年、最後の天平寺、同 39 年、総名天平寺中の代表的坊院三蔵坊、夫々、最重要な文化遺産が大雪にて壊滅した、衝撃的悲劇に見舞われた。

元々は当山頂、大御前の頂にあり、1701 年創建以来、325 年間、屋根以外、修復の無かった経緯に鑑み、同神社系統の貴重な歴史文化遺産は、現在地に鎮座の同神社がほぼ唯一残り、それ以外には、既に、ほぼ皆無となったています。

今般、緊急復旧に付、格別のご理解ご協力を賜り、心から厚く深く御礼中でございます。引き続き、本格復旧が待ったなしであります处、今後の対応、一刻の遅延も許されざる差し迫り、緊要な状況に至っています。特に、当該案件は、国史跡内の当県文化財として、然るべく果す法令上の観点からも、格別のご理解とご配慮を賜りますよう、何卒、衷心、宜しくお願い申し上げます。